

《令和6年度 茨城支部ニュースレター 第1号》

「第1回資格更新研修会」が行われました。

- 1 日 時 : 令和6年5月12日(日) 13:40～16:50
- 2 場 所 : アルスホール(つくば文化会館アルス内)
- 3 参加者 : 茨城支部正会員 33名
- 4 テーマ : 「発達障害のある方の運動発達支援～その子にあわせて支援するために～」
- 5 講 師 : 筑波大学 体育系 准教授 澤江 幸則 先生

6 内 容

主に発達障害のある子どもや若者を対象とした運動発達支援の現状や、実際の運動指導場面で活用できる方法について、ワークショップ形式でご教示いただきました。

(1)運動発達支援とは

「日常生活文脈に基づき、要支援者と支援者との関係性に依存し、時間的制約のなかでの支援者の視点にたって変化を求めるもの」である。

(2)発達的变化を捉える

- ・ボトムアップモデル
- ・環境適応モデル

⇒いずれのモデルでも、その子にとって適切な運動をすることで日常生活を満たす。日常生活への般化が重要。

(3)アセスメント

包括的なアセスメントを行い、運動課題を見出す。

障害のある子は、粗形態から精形態に移行するのに時間がかかるため、運動意欲が低下しやすい。

⇒意欲を低下させぬよう、移行中を支援することが大切。

- ・環境要因 : 地域の支援資源など、日常聞き取り調査
- ・適応状況 : Vineland II
- ・運動意欲 : 運動有能感調査
- ・運動発達 : MABC 3、BOT 2 など
- ・認知発達 : WISC - V、田中ビネー V など

(4)発達的变化を促す

介入を計画するときには、効果に関する根拠が示されている方法を主とすることが推奨される。

どれを使えばよいのかは「DCD 国際ガイドライン(Blanck,et al.,2019)」を参考に。

- ・感覚、知覚を用いた介入法
- ・認知を用いた介入法…子どもに考えさせる方法で、現在注目されている
NTT(Neuromotor Task Training)、CO-OP(Cognitive Orientation to daily Occupational Performance)など

- ・ビデオゲームを用いた介入法 など

(5) アダプテッド

アダプテッド：スポーツが、個々の何らかの特別なニーズに合わせて、修正や変更、付加などを行うことである。

⇒その子が参加しやすい工夫をし、「もっとやってみたい」と思わせることが大切。

例えば、ボールの大きさや材質を変える、特別ルールをつくる、など

cf.運動学習では繰り返しが不可欠（繰り返すことにより小脳で自動化）

アダプテッド・エコロジカルモデル：障害特性に応じて工夫する。「環境」と「課題」を変え、一人一人に合わせる。

(6) 演習

グループに分かれてワークショップ形式で実施。

- ①「ボール投げ」…子どもが楽しく持続的に運動に参加できる方法を考えた。

また、粗形態を精形態に変化させるための工夫について検討した。

- ②「体操」…澤江先生の指導場面を見て、工夫している点について話し合った。

運動発達支援の在り方について、演習を通して実践的に学ぶ機会となりました。

障害のある子どもたちが主体的に、そして継続的に運動に参加できるように、“どうやって面白がらせるか”という視点が大切であることを学びました。

また、支援者と子どもの閉じられた関係にとどまらず、運動発達支援を通して、子どもの日常生活をより豊かにすることの重要性についても再確認することができました。

研修会の開催にあたり、ご尽力を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

◆次回の研修会の予定について

令和6年度 第2回資格更新研修会・第1回公開講座

日時：2025年1月26日(日) 13:30～16:40

会場：オンライン開催

参加費：無料

内容：5歳児健診の最新情報

講師：小枝 達也先生(鳥取県立総合療育センター)

(文責 松本一恵)